

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202817		
法人名	株式会社 山本造園土木		
事業所名	株式会社 山本造園土木 グループホーム 茶々の里		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市世知原町木浦原772番地 (電話 0956-76-2800)		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成20年2月2日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150円	昼食 250円
	夕食	300円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1		3名	要介護2		1名	
要介護3		3名	要介護4		2名	
要介護5		0名	要支援2		0名	
年齢	平均	89歳	最低	83歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人世知原クリニック、医療法人智松会松瀬診療所、岩屋歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム横には一面の茶畑が広がりコスモスが咲き乱れ、玄関前は社長が植えた樹木や自然石が配置された庭園作りにより、ホームの表札がなければ一般家庭と見間違ふ位自然に溶け込んだ佇まいである。室内の四方から見渡せるウッドデッキのプラントーの花や、広い居間に一部畳が敷かれ床の間には季節の花が飾られ、入居者の柔らかい表情、信頼の眼差しと職員の明るい声が聞かれ快適な生活が映し出されている。受診介助の際、病院職員からホーム長の身内の方と間違われる程に、職員に理念や考え方が浸透し向かう方向が一緒に“丸い輪になり、思っているだけではなく伝える事が大切”である事を実践されている。家庭の中での暮らしで役割が少なくなっていた部分が、職員の温かい見守りにより入居後取り戻されている部分もみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①理念に込められている思いや深い意味を地域の方にも伝えられるよう玄関・居間にかけている ②入居者一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえ、かかりつけ医に相談したり高齢者支援センターからもアドバイスを頂き計画に組み込んでいる③定期的な会議の後に内部研修を行うと共に外部の研修案内を紹介している④好き嫌いや食事量の把握やカロリーの過不足や栄養が偏らないように医師から助言を得ると共に栄養士に相談している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員に自己評価表を記入して貰い、ホーム長・管理者が一つにまとめた。自己評価によって職員個々の意見・考え方が理解でき、また言葉使いや声かけ等出来ている所と課題も見え、立ち止まり考える機会となった。改善策の検討は一部職員で行ったが、ケアの質の向上に向けて全員で取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームからの報告を議題として会議を開催したが回を重ねる毎に質問等も出るようになり、会議で取り上げて欲しい事や前回の検討事項について報告する等スムーズに展開できるようになった。佐世保市の担当者に書類を持って伺ったり、必要な時には電話で相談するなど、親身に聞いて頂きアドバイス等頂いている。また、市の説明会や研修会など頻繁に行われ積極的に参加している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>お便りや日々の写真をアルバムにして部屋に置いたり、面会時の写真を撮ってお渡ししたり、受診時の連絡ノートや日々の様子など細やかに報告している。“何かあれば言ってください”と声かけしたり苦情申し立ての書類を自由に持ち帰れるように設置し、運営推進会議や面会・支払い等ホームに来て頂く機会を増やすと共に、バーベキュー・敬老会・クリスマス会等催しの場を通し家族同士が交流され、常にご意見を頂ける様に心掛けている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方への挨拶から始め顔見知りになり、卵・野菜などを頂いたり近所づきあいが出来ている。地域の行事や集まる場所等が少なく、地域の方の中には「良く此処に作ってくれた」と喜んでくださる方もおられ、ホーム行事に誘い合わせて遊びに来て頂いたり入居者と稲刈りを見に行ったりしている。自治会へ加入はしていないが地域からの協力・応援も頂いている。老人会からの招待による演芸観賞、消防分団の集合訓練がホーム周囲で行われる予定である。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H.17年開設時「心の架け橋」を大事に入居者・家族だけでなく地域の方々との架け橋になっていくという思いを基にホーム長が作った。ホーム長は地域外に居住しているが地域から職員を雇用し、地域とのつながりや地域の方からの応援を頂いている。入居者が今迄の生活ぶりやその人らしく地域の中で暮らし、生活を継続できるよう支援する事を盛り込んでいる。	○	理念の一言一言に込められている思いや深い意味を職員に伝えているが、地域の方にもホームで実践されている事が、より解り易く伝えられるよう理念を大事にしつつ、地域密着型サービスとしての役割を反映させる方法など検討していかれる事に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の現場や会議の場で理念が伝えられると共に、ホーム玄関・居間に理念が掲げられ「その人らしく・・・」を大切に、そのままの姿で生活する事を支援している。何かする時にも声かけをし意思を確認しながら、無理強いをすることなく行動に結び付けている。家族が来訪しやすい雰囲気作りや、本人の気持ちや家族の気持ちを大切にしながら対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お会いした時の挨拶から始め地域の方と顔見知りになり、卵・野菜などを頂いたり入居者と稲刈りを見に行ったり近所づきあいができている。地域の行事や集まる場所等が少なく、こちらから出向くことはあまりないがホーム行事に誘い合わせて遊びに来て頂いている。地域の方の中には「よく此処に来てくれた」と喜んでくださる方もおられ、自治会加入はしていないが地域からの協力・応援も頂いている。老人会からの招待による演芸観賞、消防分団の集合訓練がホーム周囲で行われる予定である。	○	地域行事の開催が少ない中、出来る限り多くの機会を捉えて参加すると共に、もっと多くの方にホームへ来て頂けるよう更に取り組んでいかれることに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員へ“解る所だけでいいから”と自己評価表を記入して貰い、ホーム長・管理者が一つにまとめた。自己評価によって職員個々の意見・考え方が理解でき、また言葉使いや声かけ等出来ている所と課題も見え、立ち止まり考える機会となった。改善策の検討は一部職員で行ったが、ケアの質の向上に向けて全員で取り組み実践している。	○	職員個々により外部・自己評価項目の理解度に差があり、時間をかけて項目毎の意味や狙いなど勉強会を行うと共に、更なる充実に向けた取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター・区長・民生委員・地域住民代表者・家族の方に出席して頂き、ホームからの報告を議題として開催されてきたが、回を重ねる毎に出席者の方も顔馴染みになってきて、話もスムーズに展開し質問等も出るようになってきた。会議で取り上げて欲しい事をお聞きしたり、前回の検討事項について報告する等次回へつなげている。	○	参加者名の欄に役職名を書いたり、議事録に発言者名・回答者名・出された意見等を残す事で、出席されていない方にもホームの姿勢等も伝わりやすくなる。利用者の参加も短時間から試みていく等、無理なく出席できるような取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の報告以外に佐世保市の担当者に書類を持って伺ったり、必要な時には電話で相談する等、親身に聞いて頂きアドバイスを頂いている。また、市の説明会や研修会など、頻繁に行われ積極的に参加している。	○	日々の暮らしぶりが解るようなホーム便り等を定期的を持って行く等、窓口へ伺う機会を更に多くしホームの活動内容について等、情報提供を継続的に行われ連携の強化に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	“茶々の里だより”を3ヶ月毎に発行し日々の生活ぶりを見て頂ける様にしている。来訪時や電話等で週1回～月1回程度定期的に暮らしぶりを報告すると共に生活記録を見て頂いたり、健康状態について定期的や状況に応じて報告し、遠方の方にはコピーを郵送している。お便りや日々の写真をアルバムにして部屋に置いたり、遠方から来られた方には面会時の写真を撮ってお渡ししている。受診時の連絡ノートや日々の様子など細やかに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“何かあれば言ってください”と声かけしたり、苦情申し立ての書類を自由に持ち帰れるように設置しているが、特に苦情や不満などは聞かれない。運営推進会議や面会・支払い等ホームに来て頂く機会を増やすと共に、バーベキュー・敬老会・クリスマス会等催しの場を通し家族同士が交流され、常にご意見を頂ける様に心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	社長・ホーム長は意識してコミュニケーションをとり離職を最小限にしており、普通に話をし自然にふるまい気軽に話せる雰囲気になっている。職員同士仲が良い関係を大切にしているが、必要な時はきちんと伝え注意している。勤務や休みの希望に極力応じ、個人面談や食事会・親睦会等職員のストレス解消に努め、体調不良や困っている事、気になる事がある時は早めに個別に面談している。チームケアを行い新規職員が安心してケアが提供できるよう配慮し、職員もやりがい感を持っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員が業務に慣れる迄は運営者始め管理者やリーダー・看護師等が日々の現場で指導に当たると共に、夜勤時も含め先輩職員と一緒に勤務しながら指導できるような研修体制を取っている。定期的な会議の後に内部研修を行うと共に外部の研修案内がある度に、各人の職歴などに応じて適任者に受講可能な研修を薦めているが、職員毎に研修計画として作成しているものはない。	○	毎月定期的に時間を取ってホーム内研修をすると共に、研修担当者や企画者等を決め、個々のレベルに応じた育成計画について職員と話し合いながら、取り組みたい内容等を反映させて行く事で、本人の心構えややる気にもつながっていく。今後の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は佐世保市グループホーム連絡協議会に出席し、相互訪問・見学等「気軽に来て」と声をかけ、積極的に交流している。地区別の研修会・事例検討や電話での情報交換等、職員同士は他の同業者との交流をあまり意識していないが、交流の機会は持っている。	○	入居者と一緒に相互訪問して、イモ掘りや互いのホームでは出来ない事を合同で活動できるようホーム長同志で検討中であり、今後の活動に向けた取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	電話でお尋ねがあったり家族と本人が見学に来られたり、在宅や入院先からの入居になる際も自宅へ訪問する等、顔馴染みになり安心して入居できるように対応している。本人納得の上入居されても不安にならない方もおられ、その都度家族に頻りに訪問して頂く等の協力も得ながら、徐々に馴染んで頂けるよう配慮している。長い間独居生活をされていた方が、家族と共に何度も見学に来られ顔馴染みになってから入居、暫らくすると帰宅される等を繰り返しながら入居に至ったり、安心・納得して入居される事を大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が職員の得意な事を知っており、頼みたい事によって職員を選んでいる。海水浴の前日に出掛ける時のシャツや半ズボンを買いたいと希望され一緒に出かけたり、息子や孫と思込まれている時は、その時の思いに沿って心地よく過ごせるよう支援している。昔からの風習を教わったり、体の不調時や休日後の出勤時「心配していた」等言葉をかけて頂いたり、誕生会でプレゼントを頂き涙ぐんでいる入居者の姿を見て職員が貰泣きする等喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から入居前の生活ぶりをお聞きすると共に本人から「昔はどうしていたんですか」等、会話の中からや何かをしながら横に座って思いを引き出し、自宅で過ごしていた時と同じ生活が出来るようにしている。毎日の中でゆっくり、少しずつ出来そうな事や秘めている力を見出し入居時はされていなかった事も、本人の気持ちを把握しながら役割を果たせるよう関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた個別・具体的な課題・目標の記載や、ホーム内だけではなく買い物や散髪屋に行く等、地域で暮らすという視点を盛り込んでいる方とそうでない方がいる。本人の希望に合わせてどの程度まで行っても良いのか等かかりつけ医に相談したり、高齢者支援センターからもアドバイスを頂き計画に組み込んでいるが、全ての入居者と話し合いが行われている状況ではなく、本人の意向が計画に反映されているとは言い難い。	○	本人・家族の意向を確認すると共に、本人の意向の確認が難しい時には家族と話し合い、その人らしさや希望等を第1表に表現し地域で暮らす視点を盛り込み、更に日頃行っているケアを全て計画書に記載する事で、個別・具体的な計画の立案につなげられる。表現を柔らかくしたり手順書を作る等計画書原案を提示し、家族からご意見を頂いたり電話で確認する等行う事でチームで利用者本位の計画が作成できる。今後の取り組みに期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな変化が見られない時も全入居者について月に1度、担当者会議を開き状況に応じて対応しているが、設定した時期迄計画変更に至っていない場合もある。変化がある時はその都度ケアについて話し合い、実践しているが計画に反映されていないので、今後実践内容を介護計画に盛り込み計画変更に結び付けていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により病院・医師と相談・報告により早期治療や、健康状態の把握を行い適切な治療が受けられるよう連携し、ホームでの生活の継続につなげ家族から信頼も得られている。入院中はお見舞いに行き情報交換しながら早期退院につなげている。看取りの対応や相談、利用されていない方の相談も受けたり、老人会の奉仕活動に職員も同行し共通の話題を持っている。家族に部屋で休んで頂いたり畳の部屋や事務室に宿泊できるように配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関を確認し以前からのかかりつけ医を受診されている方もおられる。体調不良時など必要に応じ協力医療機関からの往診や受診して頂いている。ホーム長や家族も協力医療機関にかかりつけ医を変更し何時でも相談できる関係にある。個別のかかりつけ医は家族同行で受診し連絡ノートで情報交換し、協力医療機関の受診に関しては看護師や職員が通院介助をし、何かあった時には電話で家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について家族・本人に聞きづらい状況があり入居時に意向を確認出来ていないが、状況に応じ本人・家族・かかりつけ医・職員と話し合い、どのような状態までホームで対応できるか等方針を共有している。H. 19. 6往診に来て頂きながら医師・職員とも相談しながらホームで看取りをし、入居者には入院しているとお伝えし混乱しないように対応した。	○	重度化や看取りについてのホームの方針を、医師を含めて職員と話し合い急変時の対応や、どのような状態迄対応出来るのか等検討し明文化した上で入居時に利用者・家族の意向も把握しながら説明し、安心して生活して頂けるように取組まれる事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に目上の方に対する尊敬の念を持って接し、誘導の声かけや介助等自尊心・羞恥心に配慮し否定的・指導的な言動をしない事は勿論、入居者の方で職員間の申し送りをしたり来訪者へ説明したり、地域の方に入居者・家族の事を不必要に話さない等徹底させている。個人情報保護法についてホーム内で勉強会を行い、記録等個人情報が書かれた書類等の取り扱い、ホーム外や第三者の耳に入るような場所で話をしない事等、職員全員が理解し取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・家事等日々の暮らしに時間がかかる方も、その人のペースを大切に“家族みたいに家に居る感じで”という思いを職員が持ち自然体で入居者と共に過ごしている。個別に体調不良になる時間帯を把握し、生活リズムがとれるような声かけは行うが、無理強いはせず時間をおいて再度の声かけをしたり“行きたい時がその人にとって一番良い時”と行動・表情・言葉で気持ちを察し、希望が叶えられるように本人の行動に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の気持ちに沿って力を発揮出来る部分で、献立や買い出し、調理や下ごしらえや盛り付け、食器の準備から後片付け迄して頂いている。旬の食材や菜園での収穫野菜、郷土食を取り入れ職員も一緒に食卓に着き、必要な介助をしながら食事を美味しく楽しんで頂ける様にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の午後と、ある程度時間を決めて生活習慣を把握した上で希望をお聞きし、入っている時間・湯温・順番等その人の好みに合わせて対応している。希望される時以外は基本的に個浴とし1:1で会話できる機会として職員は捉えている。カーテンを利用したり危険がない部分については職員も浴室外で様子を窺う等、羞恥心・恐怖心・負担感へ配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	他の入居者のお世話をしたり毎朝日めくりカレンダーをめくる、家事全般の手伝いや畑仕事と収穫を楽しんだり、料理やカラオケ等自分の役割や楽しみ事として家に居る時のように暮らしている。一人一人について生活歴・趣味等を把握し役割や楽しみ事を持って頂ける様、家族の協力も得て積極的に取り組み本人の楽しみが実現出来るようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活の継続として習慣としていた場所を把握しており、美容院・買い物・老人会や病院等、家族としての機能も大切に考えて家族にお願ひし、協力を頂きながら支援している。気分転換やストレス発散、五感刺激としての外出だけでなく、希望をお聞きしたり現在の関心事等を踏まえ、気持ちを察し対応している。	○	外出される方とそうでない方の差があり、声かけの仕方を工夫しながら外出の回数を増やして行く事で、日常的な習慣となり全員で外出が出来るような機会も増やしていきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19時～翌朝7時迄は防犯上施錠しているが、職員の作業する場所や立つ位置を工夫し安全確認に留意しながら、門・玄関・出入り可能なガラス戸等施錠せず一人での外出も可能にしている。玄関を開けると“ピンポン”と音が鳴るようにしているが、入居者の不安になる時間帯や傾向、天候等予め把握しており、事前に対応すると共に消防団や近所の方に見守りをお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	H.18.12に火災H.19.3には夜間の災害発生を想定し一部職員・利用者・消防署に来て頂き訓練を行った。最寄りの消防署や地域の消防団に対し防災訓練や緊急時の協力依頼をすると共に地域の方の応援態勢、連絡網も出来ている。	○	災害に備えた備品の準備は現在特にされていないが、必要な物品や必要量など職員と共に話し合い検討し、充実される事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みや馴染みの物等家族・本人よりお聞きし、日頃から食べ方等観察しながら好き嫌いを把握している。好みの味付けや調理の方法を本人にお願したり、教えて頂いたりするだけでなく、盛り付けを変えたり飲み物の種類を選べるようにしている。食事量や飲水量を把握・記録し定期的に体重測定を行いカロリーの過不足や栄養が偏らないように医師から助言を得ている。	○	全体を通じた食事バランスや栄養の偏りがいないか、調理法やバランスについて栄養士に相談したり、医師からもアドバイスを頂いており、今後も個別の食の支援の充実に向けた更なる取り組みに期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い廊下には“よしず”をかけたコタツや壁掛け等家具も家庭的な雰囲気にし、広い居間には畳の間とソファが置かれ、いざったり寝転んだり、好きな場所で過ごせるようになっている。床の間には入居者が散歩の時に取ってきた野草や季節の花が飾られ、ウッドデッキの花々や紅葉の樹を部屋の四方から眺められ季節の移ろいを感じられる。換気スイッチを常時入れておくと共に消臭剤や竹炭を使用し不快な臭気に対する配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談して今迄使用されていた箆笥・テーブル・鏡・テレビ等使い慣れた家具や位牌を持って来て頂いている。環境の変化による戸惑いを少なくする為、趣味の絵や好みの花を飾る等家に居た時のそのままの状態を心掛け、その人らしい居室づくりを行い居心地良く過ごせるようにしている。		